

バラの花

軍イヌを押しつもらいちよつと先のバラの  
 木の芽にまゝ 昔年芽までほ いい香りだろ  
 ち 思ふおんこ物でバラの花を石がひた  
 口セツトまきの赤い色だか 今は枝の先の不  
 七セ幹する下で樹から 枝の先端かれ枝だ  
 強い植物の根の ありところむけ ほんの少し  
 9エ 子とけつこりり 正とえ氣にむかはない  
 かつてのここのまほいそん  
 ここの洋裁店だろ

今のよろにどこでも 衣ろいおろれといふ  
 川崎 自分で作るか 洋裁店に届つてもらふ  
 かだ この界限で二軒目の洋裁店だ  
 縫子と出で、平子とと 縫う人だ  
 店の前を通ると ドアをひく ぶつてうし  
 や山 とすをひくうれ ついおじやすをしたら  
 実通る人で ~~縫~~ 道の両側をぬていふ  
 みる時 山さ い 咲きあでじやぶでアニスとし  
 の全線道がまるとまいて一編に行つてお  
 ある 古めかしいくが多し甲 遠家物であり

たいとねがうていねだつた  
彼女も私もおしやれして行くた

ふくむからうんげれど力強くこころをた

くのま すぎにうと思つていた

そのころは洋裁店が一番手頃だつたわ

しれぬ

しげうくは 家をたてかえ 仕事も中止した

そしてあまなく消えてしまつた

ここに何年か六十年経んでいゝが気がるに

お茶にさそわれ お茶をのんだのけ 二の

洋裁店だ

我が家の白いつらばりも 奪い

今バウのころにヨシヨシのかわかぬがうたてり

ま教習ぶりがずらりあるでりど とうして

こんどは美しいいのと いいえとある

もし申しこんでま 今けもう手入れたと云ふ事い

でもおれいね 美しい

2019  
4/25